

重政誠之

しげまさ・せいし

法学士、代議士、農林大臣

経歴

生:明治30年(1897年)3月20日、広島県安那(やすな)郡川南村(現:福山市神辺町川南)生まれ

没:昭和56年(1981年)6月3日、享年84歳

| | | |
|-----------------|-------|------------------|
| 大正5年(1916年) | 19歳 | 広島県立福山中学校(誠之館)卒業 |
| 大正9年(1920年)8月 | 23歳 | 第六高等学校卒業 |
| 大正11年(1922年) | 25歳 | 高等試験行政科合格 |
| 大正12年(1923年)3月 | 26歳 | 東京帝国大学法学部独法科卒業 |
| 大正12年(1923年)12月 | 26歳 | 農商務省入省 |
| 大正14年(1925年) | 28歳 | 分離した農林省に入る |
| 大正14年(1925年)5月 | 28歳 | 農林事務官 |
| 大正14年(1925年)末 | 28歳 | 結婚 |
| 昭和2年(1927年) | 30歳 | 農林省法令審査委員 |
| 昭和2年(1927年) | 30歳 | 小作調査会幹事 |
| 昭和2年(1927年) | 30歳 | 長男篤之が生れる |
| 昭和3年(1928年)ごろ | 31歳ごろ | 大臣官房文書課兼農務局 |
| 昭和9年(1934年)6月 | 37歳 | 農林省農務局肥料課長 |
| 昭和13年(1938年)1月 | 40歳 | 農林省大臣官房会計課長 |
| 昭和15年(1940年)7月 | 43歳 | 日本肥料株式会社監理官 |
| 昭和16年(1941年)1月 | 43歳 | 農林省資材部長 |
| 昭和16年(1941年)6月 | 44歳 | 農林省総務局長 |
| 昭和19年(1944年)2月 | 46歳 | 農商務省事務次官 |
| 昭和20年(1945年)8月 | 48歳 | 農林省事務次官 |
| 昭和20年(1945年)11月 | 48歳 | 日本肥料株式会社理事長 |
| 昭和26年(1951年)9月 | 54歳 | 横浜共同埠頭倉庫株式会社取締役 |
| 昭和27年(1952年)10月 | 55歳 | 衆議院議員当選 |
| 昭和32年(1957年)7月 | 60歳 | 自民党政務調査会副会長 |

| | | |
|------------------|-----|---------------|
| 昭和33年(1958年)7月 | 61歳 | 肥料審議会委員 |
| 昭和37年(1962年)7月 | 65歳 | 農林大臣(第二次池田内閣) |
| 昭和42年(1967年)1月 | 69歳 | 衆議院議員当選(六期) |
| 昭和42年(1967年)1月 | 69歳 | 自民党代議士会会長 |
| 昭和44年(1969年)12月 | 72歳 | 政界引退 |
| 昭和47年(1972年)11月 | 75歳 | 勲二等旭日重光章 |
| 昭和56年(1981年)6月3日 | 84歳 | 逝去 |
| 昭和56年(1981年)6月 | 84歳 | 従三位(銀杯一組賜与) |

生い立ちと学業、業績

生い立ちと学業

広島県安那(やすな)郡川南村(現:福山市神辺町川南)の出身、父重政亮之助の三男。大正5年(1916年)に福山中学校を卒業。参議院議員、参議院副議長の重政庸徳氏は実兄。

業績

広島県第3区選出当選3回の衆議院議員重政誠之氏は、人も知る農林行政の権威として自民党内閣の続く限り、一度は農林大臣の椅子に腰を下すべき人物である。自由民主党総務会長河野一郎氏とは盟友の交わりをもって、近い将来河野氏が政権を握るような場合、重政氏は重要な存在となるであろうことが予想されるのである。

東大出の俊才、直ちに農商務省に入って官僚生活を久しく体験、同省の課、部、局にそれぞれ長を勤め、戦時中は農林次官として充分の腕を振るった。河野一郎氏は、かつて朝日新聞記者とし農林省詰であつた時代、課長であつた重政氏の知遇を受け、爾後両氏は水魚の交り続けるに至つたものと云う。

その性格は恬淡放膽、頭脳は緻密明析・しかも善意に満ちた政治家と云える。その人間的魅力は大きく、慈味あふれる個性を持つ点で、重政氏を畏敬するファンは多い。

揮毫

昭和46年(1971年)11月、福山市川口町・川口八幡神社境内に「川口築成三百年記念事業碑」を揮毫した。

重政誠之先生の像

昭和56年(1981年)9月、福山市新涯町4丁目の新涯4公園内に「重政誠之先生の像」の銅像が建つ。亀岡高夫・農林水産大臣揮毫、篠原日雄撰文、陶山定人作。

重政誠之翁顕彰碑

昭和56年(1981年)11月、生地に近い神辺町天別豊姫神社境内に「重政誠之翁顕彰碑」が兄・重政庸徳翁顕彰碑に並んで建つ。(出典1・2・5)

碑文

重政誠之翁 明治三十年三月二十日、当地神辺町川南に生れる。

福山誠之館中学校、第六高等学校、東京帝国大学を卒業、農商務省に入り肥料課長、総務局長、農林事務次官を経て、昭和二十七年、広島県第三区より政界に新出、衆議院議員当選六回、自民党総務、政調会副会長、代議士会長等歴任、昭和三十七年、池田内閣の農林大臣となり、農政の父としてひろく敬慕される。その間、三川ダムの建設、備後工特地域の指定、日本鋼管の誘致、新幹線の福山停車、入江大橋の架橋をはじめ、備後地方発展のために貢献した偉大な業績は、とこしえに郷党の鑽仰するところである。

また、盟友河野一郎と春秋会を主宰し、園田直、中曽根康弘、櫻内義雄をはじめ、一九八〇年代の日本を指導するあまたの政治家を薫陶した功績は、現代日本政治史に特筆されなければならない。その功により、従三位勲二等に叙され、旭日重光章を授けられる。

翁はその名の如く、誠実無比、終生政治家の節をまげず、昭和五十六年六月三日、八十四才の天寿を全うされた。われら、ここに翁の遺徳を偲び、功を称え、ゆかりの地に碑を建立して後世に顕彰するものである。

昭和五十六年十一月吉日

顕彰碑建立実行委員会

(出典3)

出典1:『政治産業文化備後総合名鑑』、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年6月

出典2:『自治行政大観 新日本人文録(広島県人国記)』、577頁、地方自治調査会編刊、昭和41年11月30日

出典3:『重政誠之翁顕彰碑建立記念誌』、顕彰碑建立実行委員会、昭和56年11月

出典4:『福山学生会雑誌(第66号)』、87頁、福山学生会事務所編刊、昭和3年8月5日

出典5:『福山いしぶみ散歩』、49頁、佐野恒男著、福山市文化財協会刊、1993年5月12日

2005年3月14日更新:出典●2006年3月2日更新:経歴・本文(深安郡→福山市)●2006年4月3日更新:タイトル●2006年5月23日更新:連絡先(削除)●2008年4月22日更新:経歴・本文●2008年7月10日更新:経歴・出典●2012年2月16日更新:経歴・本文・出典●2012年3月27日更新:本文●